

進路だより

vol.08

「社会に出る準備」「働くための準備」について考えよう Part.2

Key word：自己決定・自己実現

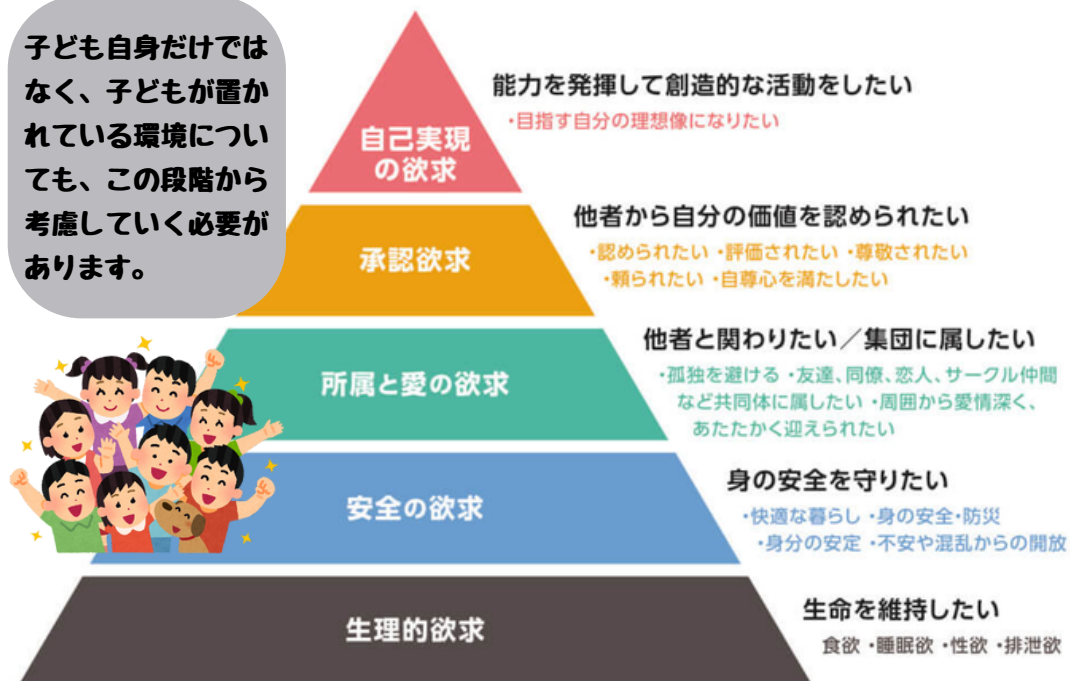
本校では、本人主体の個別的教育支援計画「私の応援計画」を中心に教育活動を展開しています。この私の応援計画は、本人の「思い」「願い」に沿った学習の一貫性、系統性、連続性をもたせるツールとなっており、子どもたちが自分の「思い」「願い」を実現していくための学びを大切にしています。

さて、この「私の応援計画」の作成と運用にあたり、大切にしていきたいのが「自己決定」と「自己実現」です。自己決定とは、「自分の生活や生き方において大切なことを実現できるように、自分が主体となって行動すること。他からの不当な影響や干渉に縛られることなく、自分のQOLに関して自分の意志で選択したり、決定したりすること」と定義されます（Wehmeyer, 2000）。自分の「思い」「願い」を実現するためには、どのような行動が必要かを本人と一緒に考え、本人が自分の意志で選択・決定し、行動できるよう支援していくことが、現在の変動の激しい社会に柔軟に対応していくためにも、とても大切になると考えます。

子どもの「思い」「願い」が発展し、本人が「こうなりたい」「こうありたい」という憧れや夢を抱き、その実現に向けて努力して行動できるようになることは大変素晴らしいことです。このような「人間の中に存在する、成長や進歩に向けて自己の可能性を最大限に実現していこうとする欲求」は、自己実現欲求と言われます（Maslow, A.H., 1954）。この自己実現欲求に至るまでには、図のような階層性が存在します。例えば、食事や睡眠などの基本的な欲求が満たされていなかったり、集団の一員として認められていなかったりすると、人は夢や希望をもてなかったり、もてていたとしても実現しようとは思えない場合があります。また、自分の生き方の選択が常に他人によってなされ、自分自身の選択を行うことをしなかった場合にも同様のことが言えます。

私たち大人は、子どもたちが夢や希望をもって幸せに生きていくことを願っています。だからこそ「今」の子どもの姿を大切にすることが、「これから」の子どもの姿につながっていくことを理解し、大人の行き過ぎた「思い」「願い」を子どもに押し付けたり、「今」の子どもの姿を無視して大人が先導したりすることがないよう、気を付けていかなければいけないと思います。

子ども自身だけではなく、子どもが置かれている環境についても、この段階から考慮していく必要があります。



図：欲求5段階説（Maslow, 1954）

保護者からのQ&A

保護者からのQ&Aのコーナーでは、保護者の皆様からの進路に関する御質問にお答えしていきます！右のQRコードを読み込み、気軽に御質問ください。

